

都市再生整備計画 事後評価シート

分水地区

平成22年12月
新潟県 燕市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県	市町村名	燕市	地区名	分水地区	面積	620ha
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	2,514百万円	国費率	0.411

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
		基幹事業	道路(町畑東西線、町畑南北線、新川堤防線、(都)五千石野中才線)、公園(大河津分水さくら公園)、地域生活基盤施設(大河津分水路右岸堤防公園)、高次都市施設((仮称)地域交流センター)						
		提案事業	地域創造支援事業((仮称)あけぼの多目的屋内運動場2号棟新設、文化センター施設整備事業、多目的アリーナ等再生整備事業、新規イベントの開催、コミュニティバス実証実験、総合型地域スポーツ振興事業)まちづくり活動推進事業(まちづくり協議会事業、さくら保全・育成事業)						
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
		基幹事業	文化センター施設整備事業(地域交流センター)			新庁舎建設に伴い、既存分水庁舎の利活用計画で交流センター機能を検討しているため。		指標2を下方修正	
		提案事業							
	新たに追加した事業	基幹事業	①道路(西裏14号線)、②地域生活基盤施設(五千石地区排水対策事業)			①(都)五千石野中才線と市街地を結ぶ道路を築造し地域住民の利便性を向上させるため追加。②冠水被害を解消し住環境の向上を図るため追加		①影響なし②影響なし	
提案事業									
交付期間の変更	当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響					
	変更								

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値 基準年度		目標値 目標年度		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
						モニタリング	評価値						
	指標1	新築住宅着工件数	件	33	H16	40	H22		42	○	あり なし	本事業により整備された都市基盤や生活関連施設による利便性の高い住環境が形成され、住宅着工件数が増えた。	平成23年5月
	指標2	文化センター来館者数	人	47,405	H16	48,500	H22		53,900	○	あり なし	文化センター改築により来館者数が増加した。	平成23年5月
	指標3	(仮称)地域交流センター来館者数	人	72,992	H16	80,000	H22		81,189	○	あり なし	交流センター整備及び多目的アリーナ再整備事業により来館者が増加した。	平成23年12月
	指標4	あけぼの多目的屋内運動場来館者数	人	13,725	H16	15,000	H22		19,500	○	あり なし	あけぼの多目的屋内運動場2号棟新設により来館者数が増加した。	平成23年5月
	指標5	コミュニティバス利用者数	人	0	H16	5,000	H22		5,968	○	あり なし	コミュニティバスの実証実験により利用者数が増加した。	平成23年5月

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値 基準年度		目標値 目標年度		数 値		目標 達成度※1	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
						モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	さくら保全活動の参加者数	人	142	H16				430			NPOさくらを守る会がさくら並木や新設道路や公園等の植樹活動等で参加者が増加した。	平成22年6月
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													

4)定性的な効果発現状況	・本事業により道路、公園等の基盤整備を行い住環境が向上した。また道路築造及びコミュニティバスの運行により交通の利便性が向上した。 ・公園、交流センター等の施設整備、道路、コミュニティバスの交通手段、更にスポーツ振興事業等の施設活用事業が相乗効果をもたらし交流人口の増加となった。												
--------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

5)実施過程の評価		実施内容			実施状況			今後の対応方針等		
	モニタリング	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた				
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				
	住民参加プロセス		分水小学校区まちづくり協議会が実施した、イベント等まちの運営・管理等を行う組織活動			都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	今後は地域コミュニティや地域の住民から施設の利活用、イベント等を継続的に実践する。		
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				
持続的なまちづくり体制の構築		施設の維持管理、清掃等への住民等の参加、イベント等まちの運営・管理等を行う組織活動			都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	まちづくり協議会と地元住民による主体的な活動を推進していく。			
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した					
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					

様式2-2 地区の概要

分水地区(新潟県燕市) 都市再生整備計画事業の成果概要						
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標:「若年層の定住と地域交流を促進するまちづくり」 目標1:若い世代が定住するような、豊かな自然との調和や利便性、文化性の高い都市生活ができる住環境を形成する。 目標2:新市に合併後も地域の生活拠点としての中心性を維持する都市基盤や交流施設により魅力ある生活環境を形成し、地域の交流を図る。 目標3:分水に住む誇りを持てる自然環境を活かした施設の整備と有効な利用運営を図る。		新築住宅着工件数	単位:件	33 H16	40 H22	42 H22
		文化センター来館者数	単位:人	47,405 H16	48,500 H22	53,900 H22
		(仮称)交流センター来館者数	単位:人	72,992 H16	80,000 H22	81,189 H22
		あけぼの多目的屋内運動場来館者数	単位:人	13,725 H16	15,000 H22	19,500 H22
		コミュニティバス利用者数	単位:人	0 H16	5,000 H22	5,968 H22
		(仮称)地域交流センター				
		(仮称)あけぼの多目的屋内運動場2号棟新設				
		コミュニティバス実証実験				
		さくら保全・育成事業				
まちの課題の変化		・地域資源を活用した総合的な生活環境の改善として市街地の道路、歩道、公園の整備により利用者及び訪れる人の利便性が向上したが、今後は施設の維持管理が課題となる。				
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)		・住民主体による活動を持続的に発展させ、住民が地域に愛着を感じながら暮らせるよう、地域主体によるまちづくり活動を持続的に行っていく。また施設の管理については市と住民が共同で行う仕組みづくりを検討し実践する。				

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

分水地区

平成24年2月

新潟県燕市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	新築住宅着工件数	件	33	40	42	確定 見込み	●	○	あり なし	42	H23年5月	○	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	基盤整備を行い住環境整備が整った。このため五千石野中才線沿線に住宅団地(30戸)の開発が行われるなどの事業効果があった。
指標2	文化センター来館者数	人	47,405	48,500	53,900	確定 見込み	●	○	あり なし	54,171	H23年5月	○	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	文化センターを改修し、利用者に質の高い空間が提供できた。
指標3	(仮称)地域交流センター来館者数	人	72,992	80,000	81,189	確定 見込み	●	○	あり なし	82,445	H23年12月	○	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	既存施設との相乗効果により総合的機能の向上が図られ施設の魅力が高まった。
指標4	あけぼの多目的屋内運動場来館者数	人	13,725	15,000	19,500	確定 見込み	●	○	あり なし	19,032	H23年5月	○	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	天候に関係なくスポーツを楽しむ施設が増えたことにより、幅広い層からの利用が可能となった。
指標5	コミュニティバス利用者数	人	0	5,000	5,968	確定 見込み	●	○	あり なし	5,503	H23年5月	○	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	施設と周辺集落を効率的な運行経路で結び地域交流の促進につながった。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	さくら保全活動の参加者	人	142		430	確定 見込み				370	H23年6月		東日本大震災により予定したイベントを中止したため評価値より減少。 ☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	大河津さくら公園等の施設ができ、さくら保全活動の参加者が増加し、利用運営等住民意識が高揚している。
その他の数値指標2						確定 見込み					H 年 月		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3						確定 見込み					H 年 月		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4－③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5－③に記載した 今後のまちづくり方策（事項）		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	利便性の高い住環境整備	コミュニティバス利用者アンケート及び検討	利用者の意見を検討し見直しを行った結果、地区内バスの他市内循環バス等分水地区の利用できるコミュニティバスは、年間1,000人以上増加した。	今後は、地域公共交通システム等を検討し、更なる利用者ニーズにこたえられるようにする。
	文化施設、スポーツ施設等の利活用活性化	スポーツに関する市民意識調査を実施した。	調査により把握した市民ニーズを今後の利活用計画を生かすように検討している。	今度は、調査に基づいた活動展開を実施していく。
	住民と協働して行うまちづくり	まちづくり協議会への補助、活動支援	イベント、行事等継続的に活動を行っており、活動参加者が増加している。	住民主体による活動を持続的に発展させる。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	公園等の維持管理	NPO法人「さくらを守る会」と大河津分水さくら公園の維持管理に関して協議をおこなった。	平成24年度から維持管理を市と協働で実施予定である。	NPO法人の他まちづくり協議会等で公園等を行政と市民が共同管理できる組織づくりを検討する。
	施設利用者の利用促進	文化活動事業のアンケート調査	アンケート調査により事業内容の改善を行い利用者が増加した。	今度も利用者・市民ニーズに即した活動を追及していく。

事後評価シート 添付様式5－③から転記

様式4－④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項